

辻内順平先生を追悼して

山 口 雅 浩
(東京科学大学)

辻内順平先生が2024年12月29日に97歳でご逝去された。

辻内先生は、1951年に東京大学理学部天文学科をご卒業後、通産省工業技術院機械試験所（現・産業技術総合研究所）に入所し、フランス・光学研究所（Institut d'Optique）を経て1968年東京工业大学教授に着任、工学部附属印写工学研究施設（後に像情報工学研究施設に改称）にて光情報処理、光計測、ホログラフィーなどの研究、教育にあたられた。1988年定年退官、東京工业大学名誉教授となり、1993年まで千葉大学教授を務められた。

初期のご研究では、収差や焦点外れで劣化した画像の光学的処理に関して、電子計算機での画像処理が困難な時代に、コーヒーレントフィルタリングによる光学的なぼけ画像修正を実証した。1965年頃よりホログラフィーの研究に着手、干渉計測への応用を開拓した。またエンボスホログラム量産に必要な基盤技術を凸版印刷（当時）とともに開発、さらにホログラフィックステレオグラム（HS）の研究で成果を収めた。これらは紙幣などセキュリティー印刷に広く使われる技術となった。1992年には医療診断用HS自動製作装置を医学部と共同開発した。

本会関連では、1970～1971年に応用物理学会光学懇話会幹事長、1988～1989年に応用物理学会会長を務め、日本の光学、応用物理学の発展に尽力された。他学会でも1994～2004年に日本医用画像工学会会長の職を担った。国際的には、国際光学委員会（ICO）にて1975～1981年に副会長、1981～1984年に会長を務めた。米国光学会（OSA、現 Optica）、国際光工学会（SPIE）、英国物理学会（IOP）でも活躍され、各学会よりフェロー称号を授与された。

そのほかに、日本工業標準調査会臨時委員、日本工業調査会委員、日本学術会議物理学研究連絡委員、応用物理学研究連絡委員、ISO/TC172/SC9国内対策委員長、ISO/TC215国内対策委員長などを歴任され、工業標準化など産業界へも顕著な貢献を果たされた。

辻内先生は多数の教科書・翻訳書でも知られ、「光学概論I・II」「光情報処理」「ホログラフィー」などは初学者のみならず、専門家にも頼りになる参考書であった。「フーリエ変換とその光学への応用」など翻訳書も多く、書籍を通じた教育面での貢献も大きい。

これらの業績に関して、応用物理学会光学論文賞、日本写真学会技術賞、SPIE会長特別賞、J. Petzval賞、OSA C.E.K. Mees Medal、応用物理学会業績賞、OSAからEmmett N. Leith Medalを受賞された。また2004年に藍綬褒章、2024年には瑞宝小綬章が授与された。

辻内先生は、本会の研究グループ、ホログラフィックディスプレイ研究会（HODIC）創設の立役者であり、運営にも長く尽力された。アジア各国で研究会 HODIC in Asia を継続的に開催し、国際交流に力を注がれた。ホログラフィーによる芸術表現へのご支援も特筆に値する。

また、国際交流などを通じ多数のホログラムを所蔵し、以前は学内に展示していたが、後に東京工业大学博物館へ寄託され、これを機に同館で国内外のホログラム収集・展示が始まった。現在は東京科学大学博物館にホログラム展示コーナーが設けられている。

お酒の席では話がお好きで、宴が深まるごとに辻内先生の語りに皆が耳を傾けた。フランス留学時の船旅での誰もいない波止場、在仏時の光学実験での位相フィルター製作の苦労話、LeithとUpatnieksの一連の論文出版当時の衝撃、世界各国での経験談（光学分野の著名な研究者もしばしば登場）、高校時代の蒸気機関車運転など、印象深く記憶に残っている。

本年5月10日に「辻内先生を偲ぶ会」が大岡山の蔵前会館にて開催された。光学関係を中心に90名超の参加者がおり、先生のご功績やお人柄を偲ぶ、心に残るひとときとなつた。

生前のご指導・ご貢献に深く感謝するとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。